

大久保遊水地25周年記念行事

「大久保遊水地探検隊」を実施しました

写真：基点橋を渡る大久保小学校の児童たち

大久保遊水地の完成から今年で25年を迎えることを記念して、9月30日(金) 村山市立大久保小学校の全校生徒68名と「大久保遊水地探検隊」を実施しました。

体験型防災学習や普段は入れない施設の見学、小学校から大旦川水門局舎までの遠足を通して、大久保遊水地について学んでもらいました。

大久保遊水地



最上川の中・下流部は、狭窄部が多く洪水の流れが悪いので、度重なる出水によって大きな被害を受けてきました。このため、狭窄部より上流の広い土地を利用し、洪水を一時貯め込み、下流の洪水被害を軽減させる「大久保遊水地」が計画されました。

大久保遊水地は、川側の小さな堤防から全面越流方式により洪水を流し込み、遊水地へ貯留します。その後、最上川の水位が下がった時点で、水門から排出されます。令和2年7月27日～29日の梅雨前線による降雨の際には、遊水地がある上下流の水位観測所では計画高水位を超過し、既往最高水位を記録しました。大久保遊水地では、満杯となる900万 m^3 (東京ドーム約8個分)を貯留し、遊水地が無かった場合に比べ、遊水地下流の大石田地点の河川水位を約0.2m低減することが出来たと推定されます。

水の深さ40cmで水が流れてくる速さ1.5m/秒の中を歩いた場合の水の抵抗力を体験できる長靴です。片足にかかる水の力は9kgです。



防災長靴体験



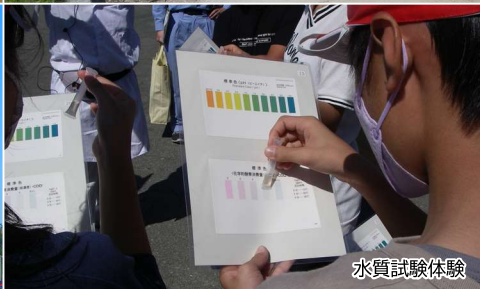
大久保遊水地探検



基点橋から最上川を臨む



大旦川水門の見学



水質試験体験



最上川に関する説明

参加者からは「大久保遊水地の役割や最上川について知ることができた」との感想をいただきました。大久保遊水地探検隊で学んだことを忘れずに、これからも私たちの生活に必要な最上川を大切にしていきたいと思います。大久保遊水地探検隊に参加された皆さん、お疲れさまでした。